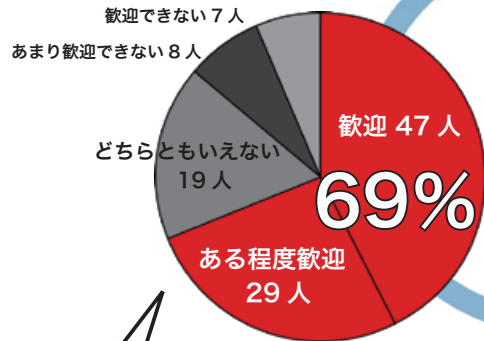


# FOCUS

### 追いかける。大学生。

#### Q. 2020年東京オリンピックをどう思いますか



(関西の大学生 110人対象)

東京五輪開催を「歓迎」または「ある程度歓迎」と答えた理由では、「景気が良くなる」「日本が活気づく」が多かった。開催のメリットとしては全体の約7割が「文化的楽しみが増える」を挙げた。デメリットとしては「五輪後不況になる」「財政赤字拡大」などが挙げられた。震災復興への影響については「予算が東北に回らないのではないか」「汚染水問題が不安」という意見が目立った。しかし「開催が決まったことで逆に復興スピードが速くなるのでは」という声も見られた。

オリンピックには期待でも不安はある...

「開会式のトータル・プロデュースをするのが夢」と話す吉田奈波さん(大阪大・2年)は、2020年という開催時期に複雑な心境でいる。2020年の開催では若い自分にはそうしたチャンスは巡ってこない。しかし、五輪出場候補の友人が日本で活躍できるという意味では、グッドタイミングだという。五輪開催は確かに夢を与えてくれる明るい話題だ。しかし、その恩恵が若者にも回って来るかどうかは定かではない。吉田さんは「次は2060年ごろ開催してほしい」と笑う。

## 学生は

東日本大震災の被災地でボランティア活動を行う学生たちは、東京五輪に対する被災者の複雑な声を聞いている。向井美幸さん(神戸大・1年)は、開催決定の日に活動先の岩手県釜石市で仮設住宅の自治会長がこぼした「人も関心も東北から離れてしまう」という言葉が耳に残る。開催決定に湧く東京の様子を見て「東北の人たちとの温度差を感じてしまった」。山川哲さん(同・1年)は「ボランティアにできるのは被災者を勇気づけることだけ」と話す。五輪についてネガティブな話をすれば被災者が傷ついてしまう。「一番よくないのは東北が忘れられること。現地に通いつめて、五輪の楽しい話題で盛り上げたい」と今後を見据える。

## 復興は

## UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>  
 ■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F  
 (TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) [info@unn-news.com](mailto:info@unn-news.com)

## 市民は

1995年の阪神・淡路大震災で壊滅的な被害を受けた神戸市長田区では、行政主導で巨額の再開復旧事業が行われた。しかし、ハコモノを次々と造るだけの復興策の結果、街の過疎化が進んだ。商店街で紳士服店を営む西本雅彦さんは、五輪開催を歓迎しながらも東北の復興に警鐘を鳴らす。長田の経験を踏まえ「外国によく見せるため原発問題など都合の悪い情報が隠される可能性がある。復興ができていくかどうかは決して外からはわからない」。長田の復興問題に取り組む震災研究センター事務局長の出口俊一さんは「五輪にあまり水を差してはいけない。しかし注意しないと復興資材、労働力、資金などすべてが東京に集中してしまうだろう」と話す。

(記者=井沼陸、田中謙太郎、野田真生)

後編は学生たちの様々な意見をもとに、専門家に話を聞く。12月23日発行のvol.182に続きます。

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会 関西大学タイムズ編集部  
 同志社大学 PRESS 編集部 神戸女学院大学 K.C.Press 編集部  
 NEWS 立命通信社 京都女子大学藤花通信編集部  
 関学新月通信社 京都大学 EXPRESS 編集部  
 大阪大学 POST 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです